



## 2023年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2023年5月12日

上場会社名 株式会社ミズホメディー 上場取引所 東  
 コード番号 4595 URL <https://www.mizuho-m.co.jp/>  
 代表者(役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 唐川 文成  
 問合せ先責任者(役職名) 取締役経理部長兼総務部担当 (氏名) 佐々木 寛 (TEL) 0942-85-0303  
 四半期報告書提出予定日 2023年5月12日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2023年12月期第1四半期の業績(2023年1月1日~2023年3月31日)

## (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年12月期第1四半期	2,391	△42.9	1,027	△62.5	1,050	△61.8	746	△61.1
2022年12月期第1四半期	4,188	—	2,743	212.5	2,748	212.0	1,917	194.3
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
2023年12月期第1四半期	78.37		—					
2022年12月期第1四半期	201.28		—					

(注) 2022年12月期の期首より、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用しております。これにより、2022年12月期第1四半期に係る各数値において、売上高につきましては、対前期増減率は記載しておりませんが、営業利益以下の各利益につきましては、影響が軽微であるため、当該会計基準等を適用する前の数値を用いて対前期増減率を記載しております。

## (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年12月期第1四半期	16,448	13,219	80.4
2022年12月期	19,102	14,282	74.8

(参考) 自己資本 2023年12月期第1四半期 13,219百万円 2022年12月期 14,282百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年12月期	—	60.00	—	190.00	250.00
2023年12月期	—	—	—	—	—
2023年12月期(予想)	—	40.00	—	52.00	92.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2023年12月期の業績予想(2023年1月1日~2023年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	4,804	△34.3	1,802	△60.6	1,813	△60.4	1,312	△59.0	137.77
通期	10,589	△39.8	4,011	△63.9	4,023	△63.7	2,902	△63.0	304.79

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2023年12月期1Q	9,525,600株	2022年12月期	9,525,600株
-------------	------------	-----------	------------

② 期末自己株式数

2023年12月期1Q	1,157株	2022年12月期	1,157株
-------------	--------	-----------	--------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

2023年12月期1Q	9,524,443株	2022年12月期1Q	9,524,470株
-------------	------------	-------------	------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	7
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8
(追加情報)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間(2023年1月1日～2023年3月31日)におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の第8波は年明けにピークに達したのち急速に収束に向かうなか、感染症法上の位置づけを5類へ移行する方針が決定されるなど、ウィズコロナに向けた行動制限の緩和に伴い社会経済活動は正常化が進みました。しかしながら、ウクライナ情勢の長期化や供給制約を背景に資源・エネルギー価格は高騰を続け、世界的な金融引締め政策等により世界経済の景気後退が懸念される状況となっており、わが国経済におきましても、急速な為替変動がインフレに拍車をかけ、物価上昇による景気の下振れが懸念されるなど、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

体外診断用医薬品業界におきましては、2019年末に発生した新型コロナウイルス感染症は、その後3年以上にわたり新たな変異株による感染拡大を断続的に繰り返し、感染拡大防止を目的とした新型コロナウイルスの遺伝子検査や抗原検査等の検査需要が急激に高まりました。一方、新型コロナウイルス感染症に対する感染防御の効果の波及や受診控え等により、インフルエンザをはじめとした既存の感染症は、検査需要が減少するという影響を受けました。

現在主流のオミクロン変異株は、感染力は高いものの重症化リスクは低減しているといわれており、段階的な行動制限の緩和に伴い、社会経済活動は正常化に向かっております。さらに新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類へ移行されたことにより、新型コロナウイルス感染症と共生する社会へと大きくかじが切られました。今後につきましては、新型コロナウイルス感染症と共生するという社会環境の変化が、過去3年程の間に免疫獲得の機会を十分に持てなかった既存の感染症(インフルエンザ等)に与える影響について注視する必要があります。

このようななか、当社は、新型コロナウイルス検査薬(遺伝子検査キット及び抗原キット)や3年ぶりに流行入りしたインフルエンザ検査薬等の増産に取り組み、安定供給に尽力いたしました。他方では、クイックチェイサー Immuno Reader II等を用いる高感度検出キット(銀増幅イムノクロマト法)として、2023年1月に新型コロナウイルス抗原とインフルエンザウイルス抗原を同時に検出する「クイックチェイサー Auto SARS-CoV-2/Flu」を発売するなど、クイックチェイサー Auto シリーズの検査項目の拡充を図りました。また、遺伝子POCT検査機器試薬システムにつきましては、スマートジーンシリーズの新たな検査項目の開発に注力するとともに、次世代の遺伝子POCT検査装置として、測定時間のさらなる迅速化や遺伝子マルチ検査システムの開発にも取り組んでおります。

このような環境下におきまして、当第1四半期累計期間の売上高は、23億91百万円(前年同期比42.9%減)となりました。

当社は、体外診断用医薬品事業の単一セグメントであります。市場分野別の売上高は、以下のとおりであります。

病院・開業医分野におきましては、新型コロナウイルス感染症のオミクロン変異株による第8波は、年明け直後にピークに達し、その後急速に収束に向かいました。この第8波収束という局面において、遺伝子検査キット「スマートジーン SARS-CoV-2」の出荷数は、約24万テスト(前年同期は第6波拡大という局面において55万テスト)となりました。また、新型コロナウイルス抗原キット(銀増幅イムノクロマト法による抗原キット、新型コロナウイルス・インフルエンザウイルス抗原同時検出キット含む)の出荷数は約69万テストとなり、新型コロナウイルス検査薬全体の売上高は、18億29百万円(前年同期比50.4%減)となりました。

一方、インフルエンザ検査薬につきましては、新型コロナウイルス感染症の発生以来、インフルエンザの流行は極めて低い水準となっておりますが、2022/2023シーズンにおいて3年ぶりに流行入りした影響により、インフルエンザ単独検査薬全体の売上高は、1億47百万円(前年同期比37.0%増)となりました。

その他感染症項目の検査薬につきましても、新型コロナウイルス感染症の影響により長らく需要が低迷しておりましたが、当第1四半期累計期間におきましては、RSウイルス/ヒトメタニューモウイルスやノロウイルスをはじめ、多くの項目において前年同期比で増収となりました。「全自動遺伝子解析装置 Smart Gene」につきましては、当第1四半期累計期間は約100台を出荷し、累計販売台数は約5,100台となりました。これらの結果、その他感染症項目の検査薬を含むその他の検査薬及び機器全体の売上高は、3億41百万円(前年同期比7.7%増)となりました。

以上により、病院・開業医分野全体の売上高は、23億18百万円(前年同期比43.6%減)となりました。

OTC・その他分野におきましては、妊娠検査薬及び排卵日検査薬は、長引く新型コロナウイルス感染症の影響から脱しつつあるものの、OTC・その他分野全体の売上高は、73百万円（前年同期比7.3%減）となりました。

利益面につきましては、主に新型コロナウイルス遺伝子検査キットの減収や、それに伴う売上構成比の変化及び棚卸資産評価損の増加により売上原価率が上昇したことに加え、研究開発費や人件費の増加などの影響により、営業利益は10億27百万円（前年同期比62.5%減）、経常利益は10億50百万円（前年同期比61.8%減）、四半期純利益は7億46百万円（前年同期比61.1%減）となりました。

インフルエンザ検査薬は、過去7年（2013年～2019年）ほどにわたり、当社の売上高の約50%を占める主力製品でありましたが、2019年末に発生した新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、インフルエンザの流行は世界的に著しく低い水準に抑えられ、2020年よりインフルエンザ検査薬の売上高は大幅に減少しております。

一方、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、遺伝子検査の需要が急激に高まるなか、2020年より発売を開始した遺伝子検査キット「スマートジーン SARS-CoV-2」の売上高が急激に増加しております。また、これに続き発売を開始した各種抗原キットの売上高も加わり、新型コロナウイルス検査薬全体の売上高が大幅に増加しております。結果として、2020年以降はインフルエンザ検査薬への依存度が低下し、新型コロナウイルス検査薬への依存度が高まる状況となっております。

今後につきましては、新型コロナウイルス検査薬は、感染拡大の動向や感染症法上の位置づけの5類移行に伴う医療・検査体制の変化などによって、本検査薬の需要や売上高は大きく左右される可能性があります。また、2022/2023シーズンにおいては3年ぶりにインフルエンザが流行入りしており、これらの事業環境の変化に伴い特定製品への依存度がさらに変化する可能性があります。

当事業年度（第47期）の四半期会計期間ごとの売上高及び営業利益は、以下のとおりであります。

第47期（2023年12月期）の四半期会計期間ごとの売上高及び営業利益

（単位：百万円）

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第47期 合計
売上高	2,391	—	—	—	2,391
内 新型コロナウイルス検査薬	1,829	—	—	—	1,829
内 インフルエンザ検査薬	147	—	—	—	147
営業利益	1,027	—	—	—	1,027

（ご参考）直近2事業年度の四半期会計期間ごとの売上高及び営業利益  
第46期（2022年12月期）

（単位：百万円）

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第46期 合計
売上高	4,188	3,125	5,967	4,300	17,581
内 新型コロナウイルス検査薬	3,684	2,730	5,383	3,381	15,179
内 インフルエンザ検査薬	107	30	78	198	416
営業利益	2,743	1,832	4,120	2,407	11,104

第45期（2021年12月期）

（単位：百万円）

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第45期 合計
売上高	2,443	3,910	4,222	2,561	13,137
内 新型コロナウイルス検査薬	1,557	3,118	3,303	1,815	9,794
内 インフルエンザ検査薬(注)3	38	37	56	106	239
営業利益	877	2,246	2,544	1,029	6,698

- (注) 1. 新型コロナウイルス検査薬には、「スマートジーン SARS-CoV-2」、「クイックチェイサー Auto SARS-CoV-2」、「クイックチェイサー Auto SARS-CoV-2/Flu」、富士フイルム株式会社向け機器試薬システムの試薬、「クイックチェイサー SARS-CoV-2」及び「クイックチェイサー SARS-CoV-2/Flu(Flu A,B)」が含まれております。
2. インフルエンザ検査薬には、「クイックチェイサー Flu A,B」、「クイックチェイサー Auto Flu A,B」、富士フイルム株式会社向け機器試薬システムの試薬及び「スマートジーン Flu A,B」が含まれております。
3. 返品分を除いた金額を記載しております。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期会計期間末における資産の残高は、前事業年度末に比べ26億53百万円減少し、164億48百万円となりました。これは主に、棚卸資産の増加2億54百万円があったものの、売掛金の減少24億77百万円及び電子記録債権の減少3億93百万円があったことによるものであります。

当第1四半期会計期間末における負債の残高は、前事業年度末に比べ15億90百万円減少し、32億29百万円となりました。これは主に、電子記録債務の増加2億8百万円があったものの、未払法人税等の減少19億16百万円及び買掛金の減少1億58百万円があったことによるものであります。

当第1四半期会計期間末における純資産の残高は、前事業年度末に比べ10億63百万円減少し、132億19百万円となりました。これは主に、利益剰余金の減少10億63百万円によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年2月10日に公表しました2023年12月期第2四半期累計期間及び通期の業績予想に変更はありません。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年12月31日)	当第1四半期会計期間 (2023年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	8,702,146	8,647,157
売掛金	5,455,694	2,978,025
電子記録債権	933,941	540,209
商品及び製品	301,423	504,759
仕掛品	368,521	332,939
原材料	597,477	684,606
その他	143,753	98,318
貸倒引当金	△2,496	△1,317
流動資産合計	16,500,460	13,784,699
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	869,730	856,572
土地	749,151	749,151
その他（純額）	534,268	593,845
有形固定資産合計	2,153,150	2,199,569
無形固定資産	14,314	14,747
投資その他の資産	434,143	449,705
固定資産合計	2,601,608	2,664,022
資産合計	19,102,068	16,448,721

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年12月31日)	当第1四半期会計期間 (2023年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	524,385	365,424
電子記録債務	212,942	421,583
未払法人税等	2,253,013	336,268
賞与引当金	56,326	166,532
その他	875,126	1,016,680
流動負債合計	3,921,793	2,306,489
固定負債		
退職給付引当金	262,122	266,823
役員退職慰労引当金	635,449	655,902
固定負債合計	897,571	922,726
負債合計	4,819,365	3,229,215
純資産の部		
株主資本		
資本金	464,548	464,548
資本剰余金	274,548	274,548
利益剰余金	13,545,258	12,482,031
自己株式	△1,948	△1,948
株主資本合計	14,282,407	13,219,179
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	295	326
評価・換算差額等合計	295	326
純資産合計	14,282,703	13,219,505
負債純資産合計	19,102,068	16,448,721

## (2) 四半期損益計算書

第1四半期累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自2022年1月1日 至2022年3月31日)	当第1四半期累計期間 (自2023年1月1日 至2023年3月31日)
売上高	4,188,290	2,391,765
売上原価	816,773	686,848
売上総利益	3,371,517	1,704,916
販売費及び一般管理費	628,161	677,253
営業利益	2,743,355	1,027,663
営業外収益		
受取利息及び配当金	1,767	10,700
受取手数料	47	45
為替差益	316	8,380
補助金収入	2,619	3,566
その他	308	162
営業外収益合計	5,057	22,856
経常利益	2,748,413	1,050,519
税引前四半期純利益	2,748,413	1,050,519
法人税、住民税及び事業税	777,571	320,162
法人税等調整額	53,784	△16,059
法人税等合計	831,356	304,103
四半期純利益	1,917,057	746,416

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

該当事項はありません。

(追加情報)

前事業年度の有価証券報告書の(重要な会計上の見積り)に記載した新型コロナウイルス感染症の影響に関する仮定に重要な変更はありません。